

指導資料  鹿兒島県総合教育センター 平成27年10月発行	国語 第134号	
	対象 校種	幼稚園 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校

思考力・判断力・表現力を育成する小学校国語「読むこと」の授業改善 - 「学びの羅針盤」, 「学力向上支援 Web システム」を活用した授業展開 -

鹿兒島県教育委員会が平成27年3月に示した「学びの羅針盤」や「学力向上支援 Web システム」を活用し、思考力・判断力・表現力の育成を目指した小学校国語「読むこと」の授業づくりの方法を、具体的な実践を通して提案する。

1 「学びの羅針盤」における国語科の授業 づくりのポイント

平成26年度鹿兒島学習定着度調査における小学校第5学年国語科の課題として、『読むこと』の要旨を捉え、効果的に説明することや筆者の意図を捉えること、『書くこと』の目的や意図に応じて正確に引用して、自分の意見を書くこと」が挙げられている。全国学力・学習状況調査の結果においても、複数の内容を含む文章中の語句の役割や相互関係を理解することや、調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明らかにして書くことなど、「活用」に関する記述式問題を中心に課題があるとされており、思考力・判断力・表現力の育成は、喫緊の課題となっている。

「学びの羅針盤」では、思考力・判断力・表現力等を高める授業づくりのポイントが、次のように示されている。

- 1 子供が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動を位置付ける。
- 2 子供にとって、必然性のある課題を設定し、単元全体を通した課題意識を重視する。
- 3 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を工夫する。
- 4 多様な本や資料を読むことに結び付ける指導を工夫する。
(下線は筆者による)

国語科では「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」等に重点を置いている。換言すれば、実生活などの具体的な場面で主体的に思考し、判断しながら国語の能力を発揮できるようにすることが求められている。したがって、国語科の授業づくりにおいては、単元を通して明確な課題意識(目的)をもち、課題解決のために、児童が自ら本や文章を選んで読んだり、思いや願いを膨らませて相手や目的に応じて文章を書いたり、話し合ったりできるような指導過程を工夫することが

求められる。このことから「学びの羅針盤」における授業づくりのポイントは、主体的な学びを通して言葉の学びを深めていく国語科の授業を具現化するものであると言える。

2 単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想

(1) 指導事項との関連を踏まえた言語活動の選定

『指導資料 国語第 124 号（平成 24 年 10 月）』でも示したとおり，言語活動を通して指導事項を指導する国語科においては，当該単元のねらいとする指導事項を確実に定着できる適切な言語活動を選定して指導することが大切である。言語活動の具体化の手順を表 1 に示す。

表 1 言語活動の具体化の手順

ステップ 1 単元で指導する指導事項の確認
- 単元で指導する指導事項を確認する。 - 学習指導要領の指導事項と単元の学習のねらいとの関連を明確にし，単元の目標を設定する。
ステップ 2 身に付けさせたい力の具体化と重点化
- 指導事項を分析し，具体的にどのような力を身に付けさせる必要があるのか（どのようなことができる，分かるようになればよいのか）を明確にする。 - 本単元で重点的に指導する内容を決める。
ステップ 3 児童の実態の把握
- 身に付いている（いない）言語能力を把握する。 - これまで行ってきた言語活動の経験を把握する。
ステップ 4 教材の分析と補助教材・資料・教具等の選定
- 教科書教材を中心に学習の目標達成に適切な教材を選定する。 - 教材文の分析を行い，その特性を把握する。
ステップ 5 効果的な言語活動の設定
- 言語活動例の具体化を図る。児童の実態に応じて，例示された活動以外の言語活動も工夫する。 - どのような言語活動が「身に付けさせたい力」につながるかを検討する。

平成 26 年度鹿児島学習定着度調査結果報告書において，目的や意図に応じて正確に引用して自分の意見を書くことに課題があることが指摘された。これは，筆者の意図や思考を想定しながら文章全体を把握し，自分の考えを明確にしていくという「C 読むこと」の指導事項(1)ウと深く関連する内容である。

この指導事項については，学習指導要領解説国語編にも「B 書くこと」(1)のウと関連付けて指導することが効果的であると示されている。

そこで，第 5 学年及び第 6 学年の「C 読むこと」の指導事項ウを扱う単元において，図 1 に示すような「B 書くこと」と関連付けた単元構想を提案したい。

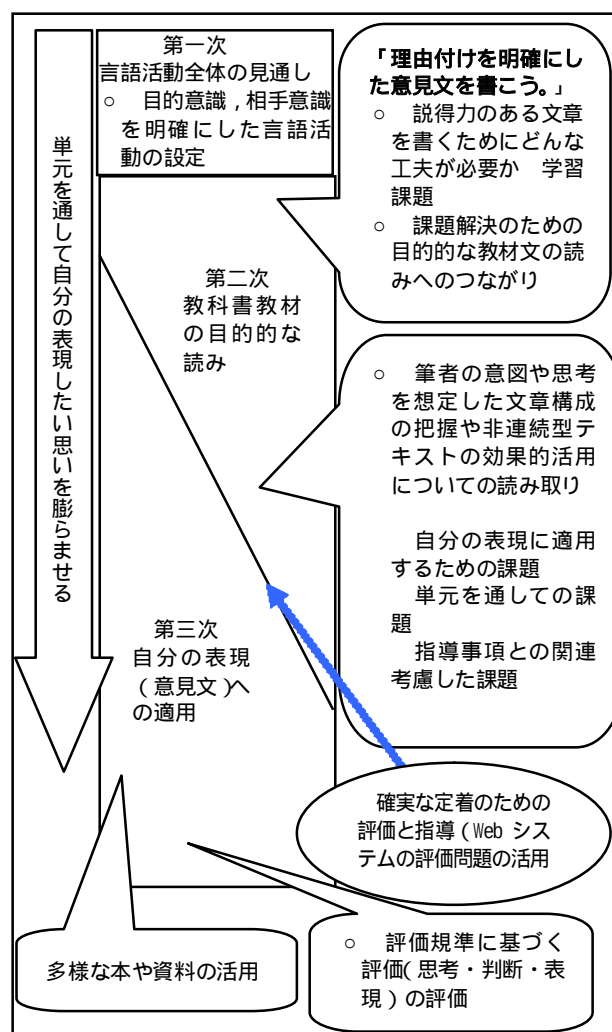


図 1 単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想のイメージ

(2) 具体的な指導計画の例（第5学年 読むこと 教材「天気を予想する」光村5年）

ア 単元名「説明の工夫をし、グラフや表を用いて説明しよう『天気を予想する』『グラフや表を用いて書こう』（全10時間）

イ 単元の目標

- (ア) 筆者が伝えたいこと，論の進め方，図表などの活用について考えをまとめて発表し合い自分の考えを広げたり，深めたりすることができる。（Ｃ読むこと ウ）
- (イ) 目的や意図に応じて収集した事柄を，全体を見通して整理するとともに，引用したり図表やグラフを用いたりするなど，書き方を工夫して自分の考えが伝わるように書くことができる。（Ｂ書くこと ウ）

過程	時	主な学習活動	指導の具体的な手立て
つかむ・見通す 調べる・深める 振り返る・生かす	1	1 テーマについて話し合い，自分の考えをもつ。 【テーマ】わたしたちの社会は，くらしやすい方向へ向かっていると思いますか。	単元を貫く言語活動 理由付けを明確にした意見文を書く。 - 前単元（「生き物は円柱形」）での学習を想起し，筆者は自分の主張を説明するために具体的な事例を挙げて説明している点や非連続型テキストを活用して説明している点など確認させる。 - 自分の主張を理解させるために，どのような事例を挙げて説明すればよいのか，説得力を高めるためにどんな工夫が必要なのかという課題意識をもたせるようにする。 - 問題提示文を捉えて内容を分け，結論部から筆者の主張を読み取らせる。 - 三つの「問い」と「答え」の関連からどのような理由と事例が挙げられているか読み取らせる。 - 予想することが難しい理由を説明するために使用されたグラフの意図や効果について考えさせる。 - 最後の三枚の写真の意図や効果について考えさせる。 - 論の展開の工夫について考えさせる。 - 問題提示に答える形の論の展開についても評価させる。 - 情報やデータと理由との整合性について評価させる。 - 筆者らしい資料活用のよさについて，自分の考えをまとめさせる。 - かごしま学力向上支援Webシステムの小5国語（書くこと）<u>2</u> 資料を基にした説明（Q4）を活用する。 「自分の考え」，「グラフや表の説明とそれとともに考えたこと」，「まとめ」の組立で，何をどのような順序で書くか考えさせる。 - 書いた文章を友達と読み合い，考え方や論の展開，表やグラフの効果について，意見や感想を交流させる。 - 他者評価に基づく学習成果について振り返らせる。
	2	2 自分の主張を説得力あるものにするために必要なことを考え，単元の学習課題を設定する。 説得力のある説明の工夫と効果について考えよう。	
	3	3 教材文「天気を予想する」を読み，筆者の主張を読み取る。	
	4	4 「天気を予想する」に使われている資料を評価する。	
	5	5 文章構成図を書き，論の展開を評価する。	
	6	6 筆者の説明の工夫を評価する。	
	7	7 Webシステムの評価問題から，筆者の論の展開と効果的な資料活用について考える。	
	8	8 自分の主張を表やグラフを活用し，書く。	
	9	9 意見文を読み合い，お互いの論の展開や説明の工夫についてまとめる。【相互評価・自己評価】	
	10		

3 「判断基準」に基づく思考力・判断力・表現力の評価

(1) 「判断基準」の設定

児童の思考・判断の過程やその結果としての表現は、言語活動を通して評価することになるが、「どのような要素で思考・判断・表現をみるのか」、「どの程度の状況を概ね満足できる状況として見取るのか」が明確でなければ評価が難しい。

そこで、「思考・判断・表現」の評価基準を基に、目標の達成の度合いを判断するための目安として「判断の要素」を設定するとともに、それを具体化した尺度として「判断基準」を設定することを提案したい。「判断基準」を設定することにより適切な評価と指導が可能になると考える。本単元の「判断の要素」及び「判断基準」について表2に示す。

表2 「判断基準」設定の具体例

評価規準（「思考・判断・表現」）
- 読む能力 - 筆者の論の進め方、図表などの活用について、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を捉え、筆者の説明の工夫について自分なりの考えをまとめている。 - 書く能力 - 自分の主張の根拠となる事実を表す図表やグラフを用い、自分の主張が説得力をもって伝わるように書いている。
思考、判断に基づく表現内容（評価の対象）
- 筆者の資料や論の展開についての自分の考え（ワークシート） - 自分の主張を伝えるために書いた意見文
判断の要素
ア 筆者の意図 イ 筆者の主張 ウ 説明の方法の評価 エ 効果的な資料の選択・活用
判断基準B（おおむね満足できる状況）
ア 筆者の資料活用の意図や効果について捉えている。 イ 「問い」と「答え」の関連を手掛かりにしながら文章構成を捉え、要旨をまとめている。 ウ 「問い」と「答え」の形式で根拠となる事例を示したり、効果的な非連続型テキストの活用をしている筆者の表現のよさに気付いたりしている。 エ テーマに基づく自分の主張を説明するために根拠となる事実を表す図表やグラフを用い、書いている。

(2) Web システムの評価問題の活用

学力向上支援 Web システムには「思考・判断・表現」を評価できる評価問題が各領域ごとにアップロードされている。これを単元の評価規準に照らしながら活用することで、児童の学習状況を的確に把握し、「判断基準B」に到達していない児童への確実な補充指導が可能になる。

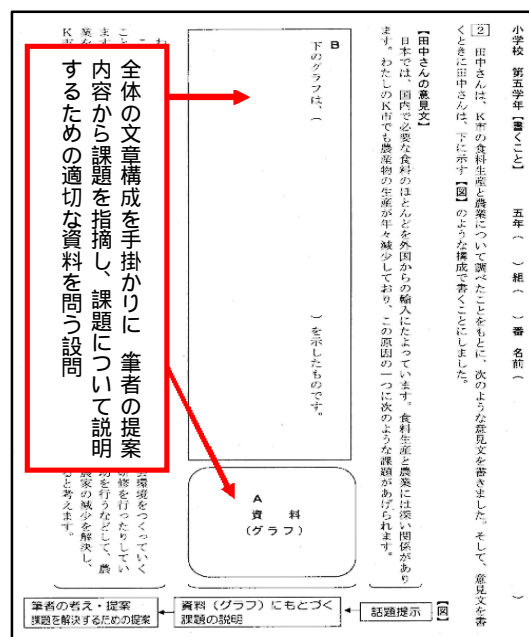


図2 資料活用に関する評価問題（Web システム）

例えば図2に示す評価問題では、筆者の提案内容から課題を読み取ったり、課題を説明するために適切な資料選択や活用をしたりするなど、「判断の要素イ・エ」に基づき学習状況を評価・指導することを通して指導事項の確実な定着が期待できる。「学びの羅針盤」や「学力向上支援 Web システム」の活用により、児童の思考力・判断力・表現力の向上に向けた授業づくりが推進されることを期待したい。

- 引用・参考文献 -

- 鹿児島県教育委員会『学びの羅針盤』平成27年
- 鹿児島県教育委員会『かごしま学力向上支援 Web システム』問題 平成27年
- 水戸部修治編著『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド』平成22年、明治図書
- 鹿児島県総合教育センター『指導資料1739号（国語第124号）』平成24年10月（教科教育研修課）

